

## 八正道（正しい悟りへの道）

当山では松の内も明けやらぬ今年一月、突然の悲しい出来事が起きました。近所で利益のために消防法を無視したカラオケ店から出火し、お檀家にも犠牲者が出たという惨事でした。

利潤の追求は資本主義の原則ではありますが、利益追求に走って不正を行い、後日不正な事件が表沙汰になり大問題となったことから企業の多くは反省し、近年コンプライアンス（法令遵守とも訳される）という耳慣れぬ言葉をよく使うようになってきました。法律を守り正しい企業活動をするのは当たり前のはずですが、先頃の北海道の精肉会社の事件は、「正しさ」を忘れた現在の社会の問題の根深さを象徴しています。

「正しさ」とはいったい何でしょうか。仏教の考え方の一端をお話したいと思います。

前回は仏教の根本であるお釈迦様のお悟りの「四諦（したい）」についてお話ししました。四諦とは四つの諦（あきらかなること・真理の意）という事で、苦諦（くたい・四苦、つまり生老病死に象徴されるように世界は苦しみに満ちている）・集諦（じつたい・苦しみに原因がある）・滅諦（めつたい・苦の原因を取り除き消滅させることができる）・道諦（どうたい・苦を消滅させる八正道という具体的方法がある）からなります。今回はさらに具体的な八正道とはどのようなものかお話ししたいと思います。

八正道は、正見（しょうけん）・正思惟（しょうしゆい）・正語（しょうご）・正業（しょうごう）・正命（しょうみやう）・正精進（しょうしようじん）・正念（しょうねん）・正定（しょうじょう）からなります。この八種は横並びにあるわけではありません。正見と他の七正道に分かれます。

正見とは、単に正しく物事を見るところだけでなく、「四諦の智」といわれ、他の七種の正道により実現されるもので、「無常」を悟り人間の苦の原因となる日常性を超越する真の認識の完成を意味

し、八正道すべての内容を含みます。

正思惟とは、日常的なものとそのものを象徴する「五欲」（財欲・色欲・食欲・名譽欲・睡眠欲など）を否定することを思惟すること、つまりは自分を見つめ直し、わがままで独りよがりになりがちな自分の心を自覚し否定することです。

正語とは、いい加減なことを口にし、その結果、他人に迷惑をかけたたり、言葉によって悪事をはたらいたりしないことです。

正業とは、殺生を離れ、物欲や愛欲から離れることです。

正命とは、「五欲」（財欲・色欲・食欲・名譽欲・睡眠欲など）を否定する生活を心掛けることで理想の生活をいいます。

正精進とは、正命は一日にして実践できるものでなく毎日日々の努力の積み重ねによって可能となるもので、その努力のことをいいます。

正念とは、努力を継続するために正しく心を保ち続けることです。

正定とは、多忙な生活に追われながら頭の中で考えるのではなく、心身のバランスをとるために一定の時間を割いて「禪定」（瞑想）をおこなひ、正しい智慧を完成することをいいます。

八正道は普段の生活に慣れきって「このままでいいだろう」という日常性の積み重ねがもたらす安逸をむさぼることから、やがて、「ちょっとだけなら」と道を踏み外していつてしまう危うさを否定するからこそ、今後の日常生活に不可欠な教えなのです。



あみたあばあ



No.24



浄土宗 松林寺

<http://syourinji.com>

